教育研修会

日時：R7年4月15日(火)　 17時より開始

場所：新王子病院 4F 会議室A

講師： 製鉄記念八幡病院　理事長　病院長　柳田太平先生

テーマ： **血性排液の診断に苦慮した一例**　(H.I様 76歳 男性の症例)

CAPDからHDへ移行した症例でした。病歴・HD導入から精査までの経過・入院中の経過を詳しく説明して頂きました。HD移行後にCAPDカテーテルによる腹腔洗浄にて血性排液を認め、頻回の洗浄で改善傾向のためカテーテルを残して経過観察していましたが、再度血性排液が出現。硬化性腹膜炎の可能性否定できずに、製鉄記念病院へ精査入院されました。

腹膜平衡機能試験では、PD歴8年を超えるとほとんどの症例がHAあるいはHとなるが、H.I様はPD歴3年だがHとなっていました。その後、血性排液の原因を考え、腹腔鏡下CAPDカテーテル抜去時に腹膜生検施行し、被嚢性腹膜硬化症(EPS)は否定するも腹膜硬化は否定できずとの病理診断でした。

EPSの診断についての詳しい講義もありました。EPSは、1999年以前は酸性液使用のため発症頻度2.5%で死亡率も高かったが、2000年以降は中性液となり発症頻度1%と低下し、臨床症状が軽度な症例が大半となり、腹膜血管変性も少ないことが確認されているそうです。EPS予防のためのCAPDの中止基準やステージ分類・治療なども分かりやすく説明し、とても勉強になりました。

当院スタッフもハイブリッド透析の関心度が高く多くのスタッフが出席して学んでいました。